

インドとの国際交流授業 生徒感想文

インドには、貧困に苦しんでいる人々や教育を受けられない子供たちがいることや、カースト制度に起因する問題を初めて知る機会となりました。

初めは学校の運営費をどのようにして稼いでいるのか疑問でしたが、ゲストハウスの運営で経費を賄うという、自分が全く思いつかなかった発想にとても感心しました。コロナ禍で学校に行けず、家事をやらなくてはいけない女の子たちが「勉強をしたい」「お医者さんになりたい」と言っている姿をみて、十分な環境が整っていない中でも、彼らの大きな夢を持つ姿勢と向上心に心を打たれました。

夕子さんやアヌープさんのように、学校を立ち上げるということは決して簡単なことではなく、本当の「ボランティア」精神と行動力がなければ難しいことですが、彼らがビニールシート一枚から学校を始めたという話を聞き、私達もまずは小さなことでも挑戦してみるということが大切なのだと気付かされました。

(3年I組 上原 美紗)

今回はZOOMではなく面と向かってお話を聞くことができるとても嬉しかったです。アヌープさんの17歳という若さで学校を建てる決意をした心が凄いと思います。インドで教育を受けることができない子供達のために無償で学校を運営していることも凄いと思います。ビニールシートから始まって大きい建物になるまでの辛さ、やりがい、どんな事があったかなど、知ることができました。またカースト制度のことは元々知ってることがたくさんありましたが、名前だけでその家族の職種がわかることを知った時はとてもびっくりしました。新しく学んだ事がたくさんあったのでこれからの人生に繋げたいです。これからは視野を広げて広く世界のことを知りたいです。

(3年I組 ポウデル ジョエル)